

〔巻頭言〕

情報のクラウド化

情報研究所長 石田 義明

チュニジアに始まりエジプト、リビアに伝搬したフェイスブック革命と呼ばれる現体制の崩壊や、東北大地震におけるツイッターの役割など、インターネットによる草の根の情報が同期した時の圧倒的な威力というものが認識された。クラウドコンピュータの発達により、能力の低いモバイルパソコンやスマートフォンでもクラウド上で高い能力を与えられ、もはや、高機能なデスクトップパソコンの役割が限定的になりつつある。

2006年のPapadopoulosの予言「The World Needs Only Five Computers.」は世界に驚きを与えた。これは分散化されたクラウドコンピュータで世界のコンピュータが系列化されると警告したのだが、2011年現在、クラウドコンピュータは企業間のみでなく、我々の実生活にも深く入り込みつつある。

始まりはGoogleが無料で開放したGメール、Googleドキュメント、Googleカレンダーである。Gメールを使ってみて、その便利さには驚かされた。別のPOP3メールも全てGメールにまとめると、保有しているどのパソコンからでも同じ状態でのメールが見える。Googleカレンダーもスケジュールの変更をすべてのパソコンで見えるというのは大変便利である。Googleドキュメントもマイクロソフトオフィスの機能をクラウド化したということであったが、他人と共有という意味では便利であるが、自分だけの場合はそれほど「ごりやく」を感じなかった。むしろDropboxという別のクラウドシステムの方が便利であった。これは2GBのメモリを無料でクラウド上に確保し、あるパソコン上でDropboxのフォルダにファイルを保存すると他のパソコンにもクラウドを通して同じファイルが保存される。修正しても他のパソコンを起動した瞬間、即座に同期される。もっと高機能な同期ソフトEvernoteもある。同期はしないが、無料で30GBという大きなファイル領域をクラウド上に確保できるNdriveも使い方は有効である。一方、マイクロソフトでは、Googleの後塵を拝したが、オフィス365を提供している。これは従来のオフィスシステムをクラウド上にのせて、毎月決まった料金を徴収するというシステムである。どれくらいの賛同を得るかはまだ未知である。またWebMatrixというクラウドシステムではWebアプリケーションが簡単に作成できる開発環境を提供している。これはクラウドシステムでWebアプリケーションが開発できるというもので、PHPやデータベースを知らなくても、サーバー上でアンケートやBBSが簡単に作成できるものである。またskydriveというシステムも提供し、無料で25GB保存できる。その上ではオフィスファイル（ワード、EXCEL、パワーポイント、OneNote）やフォルダを作成できる。これはGoogleドキュメントに対抗するものである。ライバルであるAppleではiCloudと

いうクラウドシステムを提供している。これは Dropbox と同じように複数のデバイスでファイルを同期できるが、更にアプリとの関連が緊密になっている。Windows から利用可能で 5GB 利用できる。パソコンと iPad や iPhone との緊密な連動を考えているようだ。Apple では Mac mini や MacBook air で DVD ドライブを廃止してしまい、リカバリーはハードディスク内にあるシステムファイルで行う。その他はクラウドシステムからダウンロードする。Apple は Web 上に Apple store を持ち、クラウド化という点ではマイクロソフトより数歩進んでいる。マイクロソフトはマイクロソフト オフィスという定番ソフトの存在がクラウド化の足を引っ張った感がある。またスマートフォンにおける Android、iPhone、WindowsPhone の占有競争も連動して、ここでも Apple の iPhone がかなり先んじているが、Android も巻き返しに必死で、クラウド上の支配権争いはますます激しくなる。Google と Apple と Microsoft は今後いろいろな分野で覇権争いが起こり、先が見えない状況である。一時パソコン市場で Microsoft で遅れを取った Apple であるが、昨今の活動は、売上面からも Microsoft を凌駕し、ソフト面では巨人 Google と競い合っている。数年先に全く別の会社がトップに躍り出る可能性も充分ある戦国時代と言えるかもしれない。大学で使う情報システムや講義や演習で使うソフトも、これまでの定番マイクロソフト オフィスとノートパソコンだけでよいという環境でもなくなりつつあるのかもしれない。スマートフォンや iPad や Android タブレット PC など多様なモバイルデバイスと共にクラウドをうまく取り込む環境が整いつつあるのが現状で、ハードもソフトもその勢力分野がどうなるか予測が付きにくいのである。大学の情報教育もソーシャルメディアを取り込んだ多様な独自の展開が期待される。